

## 評価事例 8

単 元 名	第5学年 Unit8 Who is your hero?
単 元 の 目 標	自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができる。 「話すこと [発表] ウ」
言 語 活 動	学級の友達に、自分のあこがれの人を発表する。自分がその人にあこがれている気持ちを知ってもらうために、あこがれの人について、得意なことや普段の様子など伝えたいことを整理して話す。

### 評価の進め方

発表の時間を2時間設け、学級全員の前で1人ずつ発表させる。教員とALTは、発表の様子を見ながら評価をする。

### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 性格や頻度、動作などを表す語句や Who is your hero? My hero is ~. Why is ~ your hero? He/She is good at ~. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 自分のあこがれの人について、上記の語句や表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>自分の気持ちを知ってもらうために、自分のあこがれの人について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>



### 思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちが更に詳しく伝わるように話している。
B：おおむね満足できる状況	自分のあこがれの人について、その人の立場（職業や自分との関係）や得意なこと、普段の様子を話している。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

### 評価例（S = 児童， T = 教員）

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>My hero is our teacher. He is good at playing sports. <u>He can play baseball and soccer.</u>① He is strong. <u>I want to play baseball well, too.</u>②</p>	<p>My hero is our teacher. He is good at playing sports. He is strong.</p>	<p>S: My hero is our teacher. He is good at playing sports. T: 普段はどんな様子ですか。 S: ...</p>
<p><b>理由</b> 自分のあこがれの人について、その人の立場や特徴、得意なことを話しているだけではなく、①He can play baseball and soccer. と具体的に話したり、②I want to play baseball well, too. と自分の気持ちを付け加えたりして、更に詳しく伝えるように話している。</p>	<p><b>理由</b> 自分のあこがれの人について、自分との関係や得意なこと、普段の様子を話している。</p>	<p><b>理由</b> 自分のあこがれの人について、自分との関係や得意なことは話しているが、普段の様子を話していない。そのため、あこがれている気持ちが十分に伝わらない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

### 指導のポイント

- ・児童があこがれそうな人や、教員があこがれている人を何人か例に挙げて示し、児童に発表のイメージを持たせる。
- ・あこがれの人について、その人の得意なことや普段の様子などを、イメージマップやXチャートなどを用いたワークシートに書かせ、伝えたいことを整理する場面を設ける。
- ・ワークシートに整理して書いたことを英語で伝えるには、どのような語句や表現を知りたいか、既習の語句や表現をどのように使って話せば良いかを考えさせる。